

外部評価への対応報告書

この度は、中国学園大学・中国短期大学外部評価委員として本学の教学及び経営に関して貴重なご意見・ご提案をいただき、大変感謝しております。

いただいたご意見・ご提案を真摯に受けとめて、以下のような改善・充実を図ってまいりたいと考えております。

引き続き、本学の教学及び経営につきまして、ご指導ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。

1. 本学の教育活動・教育課程に関する改善・充実に向けて

<中国学園大学>

- ・現代生活学部では、授業態度や提出物の提出状況、さらには遅刻や欠席状況に問題が見られるようになった場合、授業担当教員が該当学生の担任へ情報提供し、担任が該当学生に連絡をとり、面談をするようにしている。学生が担任からの連絡に応じない場合も多くあり、その場合は保護者へ連絡し、該当学生、保護者、担任とで話し合うようにしている。
- ・現代生活学部では、「具体的な『奨励』方法」(p.6)として、学習習慣が身につけていない学生たちが空きコマに自ら自習するようになるには環境づくりが重要と考え、卒業研究のゼミ室でゼミグループ単位の自習ができるようにしている。また、模擬試験を前期は月1回、後期は月2回のペースで実施し、学生には次回の模試での目標を立ててその実現に向けて自習に取り組むように求めている。
- ・子ども学部では「学科のセールスポイント」(p.6)を明確にするために、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状の3つの資格・免許の取得が可能であることをさらにPRしていく。
- ・国際教養学部では、「1年間で『TOEIC IP 2割上昇』はすごい」(p.4)と評価していただき、それを学部のウリとして広報すべきと御指摘をいただいたので、今後、大学に入学してから英語力を高められる点を高校訪問、高校ガイダンス、大学案内等の広報物やHP・SNSを通してかりやすく発信する。また、「トップリーダー講義」において地域優良企業のリーダーによる講義が行われていることを周知すべきとの御指摘をいただいた(p.4)ので、HPやSNSによりその特異性やメリットを発信し、地域社会全体に広く知っていただく工夫を行う。また、幅広い選択科目については評価されるものの、「総花的なイメージが拭えない」との御指摘をいただいた(p.6)ので、3つのコースの特色や進路や取得できる資格との関係を高校生や教員により理解していただけるように、各種広報物や高校訪問・高校ガイダンスの際により分かりやすい表現で説明するなどの工夫を行う。
- ・国際教養学部の久米南町等の自治体や企業との連携・協働した取組について高く御評価いただいた(p.6,7)ので、今後も継続して実施するとともに広報物により発信を行う。

<中国短期大学>

- ・総合生活学科では、「学科のセールスポイント」(p.6)として、生活福祉コースの1期生全員が介護福祉士国家試験に合格し、1期生として成果を収めることができたことをPRする。令和6年度は7人が受験予定であり、全員合格に向けた教育活動に努める。1名の学生が介護福祉士修学資金等貸付制度を利用しているが、この制度について今後一層アナ

ウンスの徹底を図り、短期大学で介護福祉分野を学ぶメリットを宣伝できるようにする。さらに、教育内容が重複する科目を減らすことで教員の負担を軽減し、業務の効率化を図り、学生と向き合う時間をより多く確保する。

- ・保育学科では、12月までの受験で入学が確定した新入生に対し、保育に関する新聞記事のスクラップ、ピアノの練習等の入学前課題を送付し、入学後の学習習慣づくりにつなげている。入学後は各教員が授業内容に合わせた課題をオンラインや対面で課すなどして家庭での学習習慣づくりにも取り組んでいる。今後は学科全体でこの取組を強化していく。また、授業を休みがち傾向が見えた時点（2回欠席）で本人との面談を行い、状況について確認しつつ、今後に向けた声掛けを実施している。その後も欠席が続く場合、保護者と連絡を取り合い、家庭と連携しながら状況の改善に取り組んでいる。
- ・情報ビジネス学科では、多様な学びと、多彩な資格取得が可能であることをアピールポイントとしている。そのアピールをより強固なものとするべく努力する。

<教務部>

- ・教育の質の向上を図り、学修者本位の教育を実現していくために、教学マネジメントを推進していく。そのために、3つのポリシーに基づき、学生の学修目標の具体化、それを実現するための授業科目や教育課程の構築・実施、学修成果・教育成果の把握及び可視化を進める。そして、学生の学習成果の獲得状況を評価した上で、次年度の授業科目や教育課程の構成・実施を見直していくように、様々なデータをIRセンターと協力しながら、収集・分析していく。こうした教学マネジメントを推進する体制を構築するため、「教育課程委員会」と「教務委員会」との審議事項の再検討を行っている。
- ・新教務システム内にある学修ポートフォリオを利用し、学生の学修目標から学修成果に至るまで、各自が確認点検できる環境が揃ったこともあり、この仕組みを理解し、うまく活用できるように取り組んでいく。

<図書館>

- ・学生が探究学習、調べ学習などで図書館を利用していきような仕組みを構築していく。また、学生に役に立つセミナーをこれからも実施し、図書館の利用を促進していく。

2. 本学の学生の活動や学生支援に関する改善・充実に向けて

<中国学園大学>

- ・現代生活学部では、独自テキストを用いた高校までの数学（計算力）の演習に取り組んでおり、担当教員が指導する中で学生から「出来るようになった」などの満足する声を多く聞いてはいる。今後その成果を専門科目の学修と関連付けて評価するようにしたい。また、「高等学校での未履修科目...化学および生物のリメディアル教育」(p.5)を実施していることはオープンキャンパス、進学説明会、総合型選抜事前相談などでPRしているが、さらに広報を強化したい。
- ・子ども学部では、「採用試験対策として6月から勉強会等の取り組みを実施している、が遅いのではないか。また、『教志会』といった同じ志を持った学生の会を早期から組織し、夢の実現に向けた学習に取り組ませることが必要である。IPUが参考になる」(p.5)と指摘されているが、1年生から3年生の希望者があれば「教志会」の勉強会への参加を受け入れている。その結果、令和4年度は10名の合格者、令和5年度は一人で複数県の小学校教員採用試験に合格している学生が数名いる。また、学生の自習室を5階に設け、教員採用試験受験希望者が合格に向けて自主的に学んでいる。
- ・国際教養学部では、全体的に授業時間以外の学修時間が少ないとの御指摘(p.6)を受け、

全教員が学生の学修相談に積極的に乗るとともに学修習慣が定着するよう指導する。また、学生の活動が地域に見えづらいとの御指摘（p.7）を受け、地域に対して学生の取組が分かるようなリーフレットやチラシの作成、及び SNS での発信を頻繁に行うなどの改善を行う。インターンシップについては、現在企業と提携を進めインターンシップ先の整備を進め地域のリーディングカンパニーでのインターンシップ制度の確立を図る。

<中国短期大学>

- ・総合生活学科では、在学生の「やる気」を出させる支援策として在学生のオープンキャンパス参加を積極的に促した。その結果、在学生が高校生や保護者と接する中でコミュニケーション能力を高め、それは授業や就職活動でも役に立っている。
- ・保育学科では、保育の現場で即戦力となれる人材の育成を目標とし、2年間の養成期間で実践的スキルを高めるために、実際に乳幼児と関わる経験を蓄積することが重要と考えているため、学外からの依頼はもちろん、学科教員がボランティアの場を創出し、学生が授業で学んだ知識やスキルを発揮できる機会を保障している。例えば、大学図書館での授業成果物の展示やクリスマス会での出演、岡山市消防局やアイサワ工業（株）等とコラボしたイベントに数多くの学生が参加し、乳幼児とじかに触れる経験を重ねている。今後も可能な限り学生に対しボランティアの場を提供していく。

<教務部>

- ・今年度、「休学」することなく、いきなり「退学」するケースが多く見られた。教職員の対応が遅いことがその要因の一つになっているように思えるため、相談に来るのを待つのではなく、学生が出す不穏な空気を察知し、声かけや面談を早い段階で行うようにする。

<学生部>

- ・学生相談室の利用者が少ないというご指摘（p.5、7）に対し、学生相談室の利用を促進するため下記の対応を実施し、すべての学生が必要な支援を受けられるような包括的な体制づくりを進めたい。
 - 1) 学生が気軽に相談できる環境作り
学生相談室の場所や開放時間、利用方法などを明確にし、学生が容易にアクセスできるようにする。
 - 2) 学生相談室を利用することのメリットの伝達
学生に対して、相談室を利用することで得られる具体的な利点やサポート内容を明示的に伝える。
 - 3) 守秘義務の強調
学生が安心して相談できるよう、カウンセラーが守秘義務を遵守することを強調し、プライバシー保護の取り組みを明確に伝える。
 - 4) 連携、協働の強化
学生の個別ニーズに対応した支援を提供するために教職員とカウンセラー間の連携、協働をさらに深める。
- ・中国学園の魅力のアピール不足（p.5、6、7）については、「部活動やサークル活動の成果」「学園独自の奨学金制度」「合理的配慮の実施」等をこれまで以上にホームページ等で情報発信し、学園のイメージアップに努める。

<就職支援部>

- ・今年度新規に、就職支援委員の先生方と連携して「学内相談会」を6月週2回実施した。

学生が気楽に相談できるように、相談コーナーを学生食堂と図書館の間に設置し、昼休みの12:40~13:00に実施した。参加者は21名で、平均1回に2.6人だった。この結果を活かして、今後も集客しやすい場所や時間を検討して継続していきたい。これを継続することによって、次の目的を達成できると考えている。

- 1) 学生が就職支援センターの職員を知ることができ、就職支援センター利用促進になる
- 2) 低学年から学生の就職への意識が芽生え、職業観・勤労観の育成につながる
- 3) 相談することにより、学生本人のコミュニケーション能力の育成につながる

3. 本学の教職員・学園経営・地域連携に関する改善・充実に向けて

<中国学園大学>

- ・子ども学部では、「吉備地区との連携はできているのか気になる(地元との連携)」(p.7)とあるが、「おやこ・ひろば」を実施し、吉備地区の保護者の子育て支援を行っている。
- ・国際教養学部では、久米南町での規格外キュウリを用いたレシピ開発などの取組等に見られるような地域連携をもっとやってほしいとの御意見(p.7)をいただいた。今後も授業科目やゼミを通じた地域連携の取組を継続的に実施したい。さらに、高大連携の取組を強化すべく、各教職員レベルで高校との連携開拓・強化を進めている。その際、3年団の先生や関係性の深い教員との面会を積極的に行い、学部の内容など細かい取組についてPRするとともに、高校側のニーズを聞き取り、出前講座や講演会などの実施につなげる。

<中国短期大学>

- ・総合生活学科では地域連携を模索している。近隣の中学校との連携の重要性を認識し、本学科のみならず短期大学全体の体制で連携を推進中である。この連携は将来的に本学の学生募集に繋がる活動になる。
- ・保育学科では、令和4年度より岡山南高校との連携事業を積極的に進め、劇や手遊びなどの保育スキルを高める指導にあたっている。現在は、他市町村の高校でも同じような連携を結ぶことができないか模索している。さらに、岡山市消防局、アイサワ工業(株)との連携協定の元、各種イベントを開催している。本年度初めて玉野市・渋川マリン水族館と連携し、「樂がき、海の生き物と遊ぼう」を実施した。吉備公民館とは、様々な子育て支援活動を通して連携を図っている。年5回本学で開催される地域の乳幼児とその保護者を対象として実施される子育て支援活動「この指と〜まれ」には、多くの親子が参加して下さる。学生が企画を立案し、当日の運営をする経験をこの活動を通して重ねている。これらのイベントの様子は本学HPで紹介したり、一部テレビ放映されたりもした。また、オープンキャンパス等で高校生に対しても紹介し、本科のアピールにつなげている。

<図書館>

- ・地域の方に対する図書館の行事やセミナー等の案内を強化し、地域の方の図書館利用を促していきたい。

4. 本学の広報や学生確保に関する改善・充実に向けて

<学園として>

- ・「テレビコマーシャルは他校に比べて少ない」(p.7)との御指摘をいただいたが、現在、広報誌『しらすぎ』のフルカラー化やSNSでの発信など、若者に受け入れられるような広報活動の強化に取り組んでいる。「フラウエンコール」の実績もPRに活用していきたい。

<中国学園大学>

- ・子ども学部では、高校訪問時に教員採用試験の合格者数について伝えるとともに、オープンキャンパスで模擬授業や模擬保育を実施して、入学後に学ぶ内容をイメージできるようにしている。
- ・国際教養学部では、全体的に学生と教員のコミュニケーションが少ないとの御指摘 (p.7) を受け、学生たちがより話しやすくなるように、アカデミック・コモンズという部屋を整え、学生が授業の合間に滞留し、交流できるスペースづくりを行っている。また、デジタルネイティブ世代に響くように、公式サイトや SNS から、今回御評価 (p.6) いただいたショートムービー等を通して広報に努める。

<中国短期大学>

- ・総合生活学科では、学科独自のミニガイドやクリアファイルを作成し、オープンキャンパスや高校訪問等を通じて配布する。高校訪問やInstagram等の内容充実と更新を重ね、常に新しい情報を充実させ発信する。オープンキャンパスに参加する高校生や保護者向けに学科のアドミッション・ポリシーを丁寧に説明し本学科の魅力を伝える。オープンキャンパス参加者の受験率が高くなっているため、オープンキャンパスの参加数を増やすよう、SNS 等により本学科や短期大学の知名度上げる活動をする。
- ・保育学科では、これまで大学が作成する大学案内に加え、学科オリジナルのパンフレットを作成し、高校生向けの広報活動を展開してきたが、高校の教員に対する広報用パンフレットを新規に作成し、今後の高校訪問に活用していく。さらに、広報活動ではInstagramにおいて気軽に閲覧してもらえるよう授業風景や行事の様子を動画も交え発信している。今後はその成果を分析・評価しながら改善・充実を図る。

<入試広報部>

- ・学部・学科の取り組みや成果について、学部・学科と入試広報部との間で情報共有を図り、積極的な発信を行う。
- ・1・2年生への発信が重要 (p.5) という御指摘の通り、今年度の高校訪問でも関係の学科の先生や2年団の先生にお話しする機会を意識してもらって訪問先を十分に検討し、情報発信を行う。
- ・総合型選抜とつながるオープンキャンパスについては、「素晴らしい」と評価もしていただいたが (p.5)、引き続き対応するチラシを作成し、参加者増に結びつけたい。
- ・総合型選抜については本人の意欲などを尊重した受験制度であることと入学が確定する時期が早いことがメリットととらえており、現在は金銭的なメリット (p.5) は用意していない。しかし、すべての入試区分において金銭的なメリットを提供するよう具体的に検討を進めている。
- ・短期大学と専門学校との違いについては、入試広報部として論点を改めて整理し、高校教員対象の説明会でも丁寧な説明を行う。
- ・「学生を伸ばす学校、伸ばした学校」(p.5) の具体的な様子を発信するように、入試広報部の職員が高校訪問を行う際には就学状況、就職先などを紹介することをはじめ、大学案内、入試説明会での学生によるスピーチ、学生の母校訪問などさまざまなチャンネルで発信するようにする。
- ・本学のHP、SNS などを通じた情報発信、とりわけ動画での情報発信が重要であることは、ご指摘のとおり (p.6) であり、情報が陳腐化しないようにするとともに、これまで発信できていない領域の情報を学生主体で作成した動画等で発信できるよう努める。